

平成 30 年第 3 回大崎市議会定例会一般質問発言通告書

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
1	18	遊佐辰雄	<p>1 学校給食費の無料化や補助制度の実施について</p> <p>(1) 子育て支援の一つとして、学校給食費の無料化や補助制度を実施すべきではないか</p> <p>2 安心して暮らせる防災対策について</p> <p>(1) 急傾斜地の治山治水対策の整備を急ぐべきではないか</p> <p>(2) 河川の洪水を未然に防止するため、支障木の撤去、蓄積された土砂の撤去等整備を早急に行うべきではないか</p>
2	21	富田文志	<p>1 中心商店街の再生について</p> <p>(1) 合併前の旧 1 市 6 町の商店、事業所の現状について</p> <p>ア 合併前と現在では商店、事業所の数がどのように変化しているか、伺う</p> <p>イ 商工会議所や商工会に加盟している商店や事業所の構成比率を伺う</p> <p>ウ 空き店舗対策事業で開業し、現在も営業している店舗はどれくらいあるのか、伺う</p> <p>エ 生鮮食料品が購入できる店舗がいくらあるのか、伺う</p> <p>(2) 合併前の旧 6 町の中心商店街の現状について</p> <p>ア 商店会や振興組合などが季節や時期に合わせて行っている売り出しやセール回数や売り上げ実績を伺う (平常の売り上げとの比較があれば伺う)</p> <p>イ 各商店街の街路灯は商業的な役割だけでなく、地域の防犯灯としても重要な役割を占めている。現在 3 分の 1 の電気代補助を行っているが、それでも維持運営が大変な状況と聞いている。街路灯の現状を伺う</p> <p>ウ 近所の商店で買い物ができず、遠くのスーパーにも行けない買い物難民の状況把握はできているのか</p> <p>エ 商工会や商店会等で商店街再生についての検討会や勉強会などは行われているのか、実態を伺う</p>
3	9	佐藤講英	<p>1 小中学校における学力向上について</p> <p>(1) 文科省は、7 月、小学 6 年と中学 3 年の全員を対象に 4 月に実施した全国学力テストの結果を昨年より 1 カ月早く公表した。本市における子供たちの学力テストの結果についての課題や、これまでの学力テストと比較し、学力の指導の課題と、2 学期以降の学力指導にどう生かすのか、子供たちにとって教えられたことが理解できないことほど苦痛なことはない。問題や課題をたらい回しにすることなく、生ぬるい体制を改め、学力向上推進室等を設置するなどし、学校、家庭、教育委員会が一体となって、きめ細かな指導や授業改善に取り組む教育委員会の本気度を伺う</p> <p>(2) 学校や教員が国や県、教育委員会などに報告を求められるものは 1 月から先月末まで 130 件、配付をお願いしたものは約 100 件と聞く。こうした状況は教師の教</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>える環境に問題とはならないのか、その対応について伺う</p> <p>(3) 子供たちのランドセルが重すぎるという意見を踏まえて、宿題で使わない教科書などは教室に置いて帰ることを認めるように文部科学省が全国の教育委員会に求める方針と聞いた。もっと早くに見直されてしかるべきである。重いランドセルが子供たちの負担になっていることを誰よりも承知しているのは、学校現場ではないのか。学校現場が、率先して重いランドセル対策をやって当然のはずである。それが、今まで放置されてきている。一番子供たちと身近に接している学校が、子供たちの身になって考え、実践しようとしていない。文科省の姿勢も、実に曖昧である。宿題で使わない教科書などを施錠ができる机やロッカーに置いて帰ることを認めるように文科省は教育委員会に求めてくると聞く。施錠のできる机やロッカーの設置予算を文科省自身が調達するのか。それぞれの学校でアイデアを出し合って対応してほしいと言うが、言うだけ言って、あとは現場に丸投げである。教育委員会としてどう対応するのかを伺う</p> <p>2 家庭ごみに混入する資源物の回収と処理費用の抑制について</p> <p>(1) 紙やプラスチックなどの資源物が家庭ごみに混入する割合が転入者の増加や分別意識の薄れなどにより、震災前と比較し、高どまりしていると聞く。本市における家庭ごみに混入した資源物の混入率は重量比でどれくらいで推移しているのか。また、主な資源ごみの内訳についても伺う。</p> <p>家庭ごみの総量は幾らか、資源物の混入率が減少すれば総量を減らすことができ、処理費用も抑制できると思うが、その対策について伺う</p> <p>3 介護人材の確保、育成と施設利用料の実態について</p> <p>(1) 全国的に介護人材不足が叫ばれる中、本市においても高齢化が進んでいる状況もあり、増大する介護需要に対し介護人材が不足する状況になっている。市民の安心・安全を提供し、介護基盤を確保するためには、何よりもまず介護人材の確保が喫緊の課題である。行政で取り組みが可能なあらゆる分野において、さまざまな着眼点から大崎市として重層的かつ大胆に介護人材の確保、育成に取り組む必要がある。その対策について伺う</p> <p>(2) 介護施設の利用料が年々高くなっているため、施設利用者を市外へと入所させなければならない現実にケアマネジャーは苦慮していると聞く。在宅で介護するとしても介護ヘルパーになり手がいない。このままだと利用料を払えない要介護の高齢者は介護難民になるのか。その対応について伺う</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
4	28	佐藤 勝	<p>4 学童保育と作業療法士との連携での人材育成について</p> <p>(1) 学童保育に携わる関係者から、暴れる、暴言を吐くなどといった気になる子の対応に悩む指導員が多いと聞く。家庭や地域、学校が一体となって地域の子供たちを見守り育てていくとしても、任せきりにせず、子供たちの居心地のよい環境づくりや、力加減の理解を促す遊び、視覚に訴える伝え方などを指導員に具体的にアドバイスできる、例えば作業療法士との連携事業等を取り入れるべきと思うが、その対策について伺う</p> <p>1 議会報告会から見える市政への警鐘について</p> <p>(1) 話し合うまちづくり条例と市民の役割は</p> <p>(2) まちづくりの担い手の育成とその仕組みづくりは</p> <p>(3) 議会報告会が市民満足度を高めていると思うが、「市長と語る会」を開いてはどうか</p> <p>(4) 地域によって参加者数にばらつきがあったのだが、市としてはその要因をどう捉えるか</p> <p>(5) 市職員の参加者（若手、中堅職員）ゼロとは</p> <p>(6) 人材育成方針の見直しはいつか</p> <p>(7) 市道等の整備に係る行政の構えと方針を変えよ</p> <p>(8) 市と広域行政事務組合のごみ処理行政の課題</p> <p>2 農協と行政の一体性と農業政策について</p> <p>(1) 古川農協の合併離脱から考えられる市の農政は</p> <p>(2) 産業経済部と3農協組織幹部との話し合いの場と協議の回数を重ねよ</p> <p>(3) 世界農業遺産認定を農業の再生に役立てるには</p> <p>(4) 大崎市食料、農業及び農村基本条例の効果と検証</p>
5	24	氏家善男	<p>1 減反廃止初年度における本市の作付状況について</p> <p>(1) 昨年度との比較</p> <p>(2) 全国の状況</p> <p>(3) 業務用米作付の状況と指導方針</p> <p>2 農協合併によるJAとの連携について</p> <p>(1) 広域化するJA（いわでやま、みどりの）と離脱した古川農協との連携について</p> <p>3 公立高校存続について</p> <p>(1) 人口減少、少子化で各高校の定員割れが生じ、再編の動きがある。地域や通学など影響も大きいことから、存続に向けて努力すべき市の考えを伺う</p> <p>4 岩出山体育センターのテニスコートの改修について</p> <p>(1) コートの段差や亀裂があり、プレー上、大変危険な状況にある。周囲のフェンスとあわせ、早急な改修をすべきである</p> <p>5 小中学校へのエアコンの設置について</p> <p>(1) 猛暑対策として早急に検討すべき</p> <p>(2) 体育施設へのスポットクーラーの検討を</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
6	2	伊勢健一	1 教育について (1) 青少年の地域間交流について (2) 主権者教育について 2 生涯学習について (1) スコーレハウスにおける能舞台の活用 (2) 旧大崎市区図書館の跡地利用 3 外国人の居住実態について (1) 外国人居住者数について (2) 外国人労働者の就労状況について (3) 外国人の大崎市民病院の受診環境について 4 災害対策について (1) 古川宮沢地区（川熊・宮沢北地区）の冠水対策について
7	17	関 武徳	1 中心市街地（七日町西地区）再開発と行政の取り組みについて (1) 組合設立に伴う行政の具体的支援の考えについて (2) 想定している行政機能の配置と設置効果の考え方 (3) 周辺エリアとの連動性 2 高齢者のスポーツ・文化等市外開催大会への参加支援について (1) 高齢者対象の市や県域を代表する大会参加への支援や助成はできないのか 3 市街地排水路の改良について (1) 市街地排水路の機能不全による生活環境への悪影響が懸念されるが、これまでの対応を伺う (2) 冠水対策としての排水路整備計画はどう進められているのか。進捗はどうか 4 市道整備と維持管理について (1) 市道旧石巻街道線道路改良工事の進捗と周辺エリアの土地利用の考え方 (2) 市道街路樹等の管理について 5 放射光施設と本市の活用の考えについて (1) 青葉山に誘致が決定した次世代型放射光施設の本市の受けとめ方と、活用価値をどう見るのか、伺う
8	5	山口 壽	1 水道事業について（水道ビジョンの基本理念） (1) いつでもどこでも安定した水を供給するために、未給水地域の解消について伺う (2) 環境にやさしい水道システムを構築するために、環境負荷低減策の推進について伺う。 2 環境税に対する事業計画は (1) 事業計画の素案はあるのか、市長の方針を伺う。あわせて、どのような内容なのか、伺う 3 観光産業について (1) 安全・安心な観光地にするために、鳴子観光地整備の早急な対応について伺う 4 農業振興策について

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
9	1	早坂 憂	<p>(1) 水田農業の安定策（新たな米政策）について、生産数量配分の計画で米価に対しての影響を考えているのか、伺う</p> <p>1 政宗公まつりについて</p> <p>(1) 戦国BASARAとのコラボレーションの反響について</p> <p>(2) 学園BASARAとのコラボレーションについて</p> <p>2 ふるさと納税について</p> <p>(1) 大綱1と関連して、返礼品のパッケージ開発について伺う</p> <p>(2) 返礼品で人気の高い物、逆に選ばれにくい物は何か</p> <p>(3) これまでに市長が決定したふるさと納税の使い道について</p> <p>3 婚活支援センターについて</p> <p>(1) 現在までの利用状況や実績について</p> <p>(2) 利用者が結婚した場合のお祝い金の贈呈を検討してはどうか</p> <p>4 小学校のプログラミング必修化について</p> <p>(1) 担当教員の研修について、実施状況は</p> <p>(2) 市の準備態勢について</p> <p>(3) 市民への周知徹底について</p> <p>5 本庁舎建設に伴う三本木・岩出山庁舎の利活用について</p> <p>(1) 現在考えられている利活用の方針について</p>
10	13	鎌内つぎ子	<p>1 子育てしやすいまちづくりについて</p> <p>(1) 待機児童対策</p> <p>(2) 子ども医療費の所得制限撤廃について</p> <p>(3) 保育料2人目無料化について</p> <p>2 災害に強いまちづくりについて</p> <p>(1) 冠水対策</p> <p>(2) 大江川周辺の内水対策</p> <p>3 教育行政について</p> <p>(1) 小中学校普通教室へのエアコン設置について</p> <p>4 障がい者のコミュニケーション手段の利用を促進する条例について</p> <p>(1) 条例制定の進捗状況について</p>
11	11	中鉢和二郎	<p>1 「つり橋」を鳴子峡にかけませんか</p> <p>(1) 2007年10月の鳴子峡の落石事故から、もうすぐ11年がたつ。この間、国・県の支援をいただきながら遊歩道の安全確保策を着々と進めてきたところであるが、回顧橋―大谷観音間の約900メートルは対策のめどが立たない状況である。また、展望台の新設や大深沢遊歩道の新設が、代替策または新たな魅力の発信として取り組まれたものの、以前のにぎわいは取り戻せていないのが実情である。</p> <p>これまでも何度となく、「つり橋」を鳴子峡にかけま</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>せんかと主張してきたが、「つり橋」は収益をもたらすとともに、前以上のにぎわいをもたらすきっかけとなることは、大分県九重町の「九重“夢”大吊橋」の例から明らかである。今こそ取り組むべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>2 鳴子峡をもっと生かしませんか</p> <p>(1) 秋の紅葉シーズンは、鳴子峡が最も輝く時期である。そのすばらしい紅葉をライトアップしたら、さらに集客が見込めると考える。また、冬は駐車場の除雪を行わないために事実上の閉鎖期間となっているが、「鳴子峡の雪景色」は新たな観光資源となることは間違いない。「TRAIN SUITE四季島」のお客様をお連れすることも考えるべきと思う。</p> <p>このような鳴子峡の新たな魅力の創出について所見を伺う</p> <p>3 (仮称) 道の駅おおさきについて</p> <p>(1) (仮称) 道の駅おおさきは、防災に重点を置いた整備とし、観光拠点的な完結型のスタイルではなく、中心市街地の観光や交流施設での利用者を誘導するゲートウエー型の道の駅として整備するとのことだが、現実的に可能か。</p> <p>新道の駅に対し、建設費としてのインシャルコストは負担するとしても、運営費としてのランニングコストが市の持ち出しになることは市民理解が得られないのではないか。つまり、指定管理する団体は、新道の駅をしっかりと運営し、指定管理料なしで黒字経営していただくことが最低条件である。</p> <p>その条件をつけた場合、しっかりとした事業計画収支計画を持ち、計画をしっかりと実行できる団体に運営を担っていただかなくてはならない。そのめどはあるのか、伺う。</p> <p>また仮に、指定管理料を支出する場合は、その額の見込みと根拠を伺う</p> <p>4 地域おこし協力隊員の卒業支援策について</p> <p>(1) 地域おこし協力隊は、それぞれの地域で地域の皆さんと汗をかきながら、高い志を持ち、地域おこしに取り組んできた。そして、来春の卒業後は地域に定住することを期待されている。</p> <p>しかし、卒業後は全ての公的援助は予定されていないため、前途はかなり厳しいものと言わざるを得ない。</p> <p>来春の卒業に向け、この間得られた技術や知見を生かすための最後の支援策として、自立支援（準備）給付金のような支援や、定住に必要な住居費に対し漸減する補助など、しばらくは継続して支援策をとるべきと考えるが、所見を伺う</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
12	25	山村康治	<p>1 市営住宅整備計画について</p> <p>(1) 築50年以上の老朽化した市営住宅の整備計画は</p> <p>(2) 若者定住住宅建設の考えは</p> <p>2 農林業施策の取り組みについて</p> <p>(1) 大崎市就農チャレンジ事業</p> <p>(2) 農業次世代人材投資事業</p> <p>(3) アグリビジネス創出事業</p> <p>(4) 環境保全型農業直接支払交付金事業</p> <p>(5) 農業生産工程管理（GAP）の普及推進</p> <p>(6) 直播栽培加速化支援事業</p> <p>(7) 諸施策推進で各JAと連携しながらとしているが、JA古川が合併協議から離脱したことへの所感</p> <p>(8) 2019年度からの産地交付金の上乗せによる転作作物、園芸作物の振興策</p> <p>(9) 大崎産材活用補助制度の推進</p> <p>3 隧道の整備改修について</p> <p>(1) 山王川第一号隧道（田尻大貫）の改修について、関係機関との協議状況は</p> <p>4 バス停整備について</p> <p>(1) バス利用者が風雨をしのげるバス停整備を</p> <p>5 公民館運営について</p> <p>(1) 地区公民館の指定管理は3期目を迎えたが、基幹公民館の指定管理の考えは</p>
13	8	八木吉夫	<p>1 消防本部・消防署の跡地利活用について</p> <p>(1) 跡地利活用をどのように考えているのか、地域住民の総意に沿った形で進めるのか、伺う</p> <p>2 鳴子温泉観光戦略について</p> <p>(1) 鳴子峡の川べり散策も了とするが、空中からの散策をも講ずるべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>3 七日町西地区開発に伴うまちなか観光の拠点である醸室について</p> <p>(1) 道路の拡幅等、七日町西地区の開発が進む中、まちなか観光の拠点である醸室をどのように考えているのか、所見を伺う</p> <p>4 機動性に富んだ、すぐやる課の新構築について</p> <p>(1) 水害対策等なかなか進展しない案件や、飼い主のいない猫等の対処で住民が大変な思いをしているが、解決方法を伺う</p>
14	14	木村和彦	<p>1 中心市街地の今後について</p> <p>(1) 仮称おおさき道の駅について</p> <p>ア 中心市街地、まちなかにぎわい創生の役割と期待</p> <p>1) 子育て支援施設、消防本部、大崎市役所、再開発事業等、周辺一帯の活性化と安全性</p> <p>2 子育て支援について</p> <p>(1) サテライト施設建設予定と運営について</p> <p>ア 運営方法</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
15	27	小沢和悦	<p>1) 運営における責任分担, 教育現場と子育て支援の割合</p> <p>2) 保護者に対する周知策</p> <p>3) 運営手法と人員確保策</p> <p>3 予算編成について</p> <p>(1) 予算作成時の積算, 見積もりについて</p> <p>ア 予算作成時の概算予算の作成方法</p> <p>イ 小規模の予算, 修繕費などの積算根拠と料金</p> <p>ウ 地元業者育成と入札方法について</p> <p>1 談合問題への対応について</p> <p>(1) 9月4日の議員全員協議会における市長報告の「指示」は, 大崎市に係る官製談合の疑いに対する調査でもあるのか</p> <p>(2) 合併以来の5,000万円以上の入札件数と, その中で予定価格比落札率100%及び98~99%台は何件か。また, 最低制限価格比100%及び100%台での落札件数は何件か。把握と分析は行っているのか</p> <p>(3) 契約案件参考資料に栗原市や登米市と同様の入札調書を配付することについて</p> <p>2 放射能汚染物質の処理について</p> <p>(1) いつから処理方法を検討し, 方向を決めたか</p> <p>(2) 焼却に関する「説明会」資料について</p> <p>(3) 覚書等での約束を一方的に破る法的根拠は何か</p> <p>3 古川の農村部と市街地をつなぐ「公共交通」と「地域内交通」について</p> <p>(1) 検討委員会をつくって1年以上になる清滝地区から市街地への「予約乗り合いタクシー」の実現見通し</p> <p>(2) 市街地への公共交通がない旧古川市農村部から市街地への公共交通または地域内交通についての基本的考え</p> <p>(3) 合併して12年, 旧市町の枠を超えた「地域内交通」を検討すべきではないか</p> <p>4 諏訪球場を「体育施設」として整備することについて</p> <p>(1) 現在の諏訪球場は, 雨が降ると水はけが悪くて試合ができなかったり, 草がぼうぼうで, ボールが見えなくなる状態だが, なぜ「体育施設」にしてこなかったのか。「体育施設」にできない理由があるのか</p> <p>(2) 公園内に「体育施設」として少年野球やソフトボールができる球場を2面ないし3面つくることについて</p>
16	22	山田和明	<p>1 鹿島台小学校校門の扉の保存について</p> <p>(1) 鹿島台小学校の校門は, 昭和5年10月, 鎌田三之助村長の寄附で建立された。この校門の門扉は, 品井沼水害予防のため, 小川に設置された閘門の門扉でつくられたものである。鹿島台小学校の校門にあることで大事に扱い, 防腐剤処理を施し, 長期間にわたって保存してきたが, 木材のため, 扉の傷みが目立つようになった。</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
17	20	相澤孝弘	<p>そこで、文化財でもある校門の扉を新たな場所で保存すべきと考えるが、教育長の所見を伺う</p> <p>2 幼児期から小中学校生徒まで一貫した発達障がいに係る支援体制について</p> <p>(1) 幼児期から小中学校生徒まで一貫した発達障がいに係る支援体制の整備が望まれるが、市長の所見を伺う</p> <p>(2) ペアレントメンターによる相談体制の整備を</p> <p>(3) 大崎広域ほなみ園では、重度児の受け入れ比率が増加傾向にあるなど、さまざまな問題、課題を抱えての事業展開であるため、今後の市としての発達障がい児支援の取り組みについて伺う</p> <p>3 幼児教育・保育の無償化に対する大崎市の対応について</p> <p>(1) 大崎市としてこれを機に質の高い幼児教育・保育の推進をどう図っていくのか</p> <p>(2) 待機児童対策をどう進めていくのか</p> <p>(3) 幼児教育・保育の無償化の範囲について</p> <p>(4) 大崎市の財政負担について</p> <p>(5) 事務負担、業務量への補助について</p> <p>(6) 大崎市が余裕を持った準備ができる期間の確保は図られるのか</p>
18	4	山口文博	<p>1 小学校、中学校の各教室への空調設備（エアコン）及び体育館、市指定避難所への冷房機器の整備について</p> <p>(1) 近年、夏季において大崎市の気温が非常に高くなり、そのことにより、児童生徒の教育環境が著しく悪化している。その対策として各教室の空調設備を整備することについて伺う</p> <p>(2) 小学校、中学校の体育館は空調設備がないため、夏季には行事や部活などのとき、暑さで体調不良、熱中症になる児童生徒がふえている。その対策として移動可能な冷房機器の整備をすることについて伺う</p> <p>(3) 西日本豪雨災害では、避難所の体育館の中が高温のため、避難された人たちが劣悪な環境で体調不良や熱中症になっていると報道された。大崎市の市指定避難所は小学校・中学校体育館が多い。そこで、移動可能な冷房機器の整備が必要であり、また避難所に指定されている廃校になった小学校の一部教室に空調設備を整備することについて伺う</p> <p>2 鹿島台地域の洪水対策として土地改良区の排水事業を円滑に運営するための排水費補助率の見直しについて</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
19	6	佐藤仁一郎	<p>(1) 豪雨、台風などで洪水や土砂災害が日本全土で発生している。鹿島台地域では洪水や冠水が起きやすく、その被害を防ぐためには排水機場による排水が重要であるが、その経費は組合員（農業者）が負担している。そこで、排水費補助率を上げる必要があるため、その補助率の見直しについて伺う</p> <p>3 骨髄移植ドナー支援事業について</p> <p>(1) 骨髄・末梢血幹細胞の提供者（ドナー）の負担軽減、ドナー登録の増加や移植の推進を図るため、ドナーに対し助成金を交付することについて</p> <p>1 深刻な少子化の現状と保育所、幼稚園運営の方向性を伺う</p> <p>(1) 幼稚園、保育所待機児童の現状を伺う</p> <p>(2) 将来的に入園者の減少が予想されるが、子育て支援総合施設と民間保育園、幼稚園とのバランスの方向性を伺う</p> <p>(3) 公立施設職員の正規・非正規職員の割合と今後の方向性</p> <p>(4) 公立幼稚園、保育所、子育て支援総合施設の民営化の方向性を伺う</p> <p>2 若者定住に向けた意識の醸成と雇用の確保について伺う</p> <p>(1) 本市における企業誘致の現状と方向性を伺う</p> <p>(2) 本市における地元企業（家業）継承・支援に関する現状と課題を伺う</p> <p>(3) 本市の起業支援施策の方向性を伺う</p> <p>(4) 学校教育において郷土愛を育むための郷土教育を充実すべきと考えるが、見解を伺う</p> <p>3 本市でも医療用補正具助成事業に取り組むべきである</p> <p>(1) 医療用ウィッグの助成制度の概要を伺う</p> <p>(2) その他の医療用補正具の助成制度導入の考えはないか、伺う</p> <p>(3) 新生児聴覚スクリーニングに対する助成制度を導入すべきである</p>
20	7	佐藤仁一	<p>1 人口減少社会の進展によるより一層の総合行政の推進策を問う</p> <p>(1) 中長期的な計画に基づく計画行政と庁内の横断的な能動的行政を行う総合行政の推進を図る調整機能の充実策を伺う</p> <p>(2) 農業分野における土地改良基盤整備事業と建設部門の生活道路改良事業の地域計画を高めて、一体的な生活環境整備の事業進捗を図る総合行政を推進する方策を伺う</p> <p>(3) 納税者視点での投資的な効率性を求める上水道や下水道事業の整備と市道の維持補修整備との連動性、景観性、安全性などの総合調整の推進体制を伺う</p> <p>(4) 教育委員会所掌の学校統廃合と政策課所掌の跡地活用並びに、先に策定された公共施設等総合管理計画など</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>に求められる行政の総合力、いかに総合行政の推進を図るか、方策を伺う</p> <p>2 全国学力調査を踏まえた本市の教育行政の充実に向けた所信を問う</p> <p>(1) 全国学力調査の成果を検証し、知識蓄積型の学力から新しい学力を培う教育実践の内容（授業の仕方、学校運営の仕方、教員研修の仕方）への改善や充実策を伺う</p> <p>(2) 教師は学校抜きに存在せず、教師は学校の一員であり、教師集団の組織学習が必要と考える。そこで、本市の教育施策の向上に向け、小中学校をフィールドにした教職大学院構想などを宮城県教育委員会や大学機関に提唱する所見を伺う</p> <p>(3) 地域や企業などと家庭、学校が連携環境を強化して、青少年の健全な育成が及ぼす社会性の醸成など、まちづくりと連動する総合的な行政協調の政策化の必要性を伺う</p> <p>3 主要農作物種子法の廃止に伴い、本市農業振興への影響及び課題についての所信を伺う</p> <p>(1) ササニシキを初め、地域ブランド米の開発研究の蓄積された大崎市として、主要農作物種子法の廃止の周知や水稻採種組合などへの関係性と支援のあり方について伺う</p> <p>(2) 種子栽培農家を初め、地域特性種子利用の商品づくりを含めた、農業分野における地域経済に及ぼす影響をどう捉えているのか。また、豊饒の大地大崎市の特性発信策を伺う</p> <p>(3) 廃止に伴い、緩和的な支援継続は想定するが、将来心配される種子流通の完全民間移行及び海外企業の進出に伴う種子品種の多様性の維持に向けた課題へ対処する施策等を伺う</p>
21	10	佐藤弘樹	<p>1 「おおさき市地方創生総合戦略」の進捗と成果について</p> <p>2 移住定住支援のあり方と方向性について</p> <p>3 高校生との協働事業実施の考えについて</p> <p>4 学校統廃合に伴う空き校舎の利活用検討状況について</p> <p>5 公認陸上競技施設の整備構想は</p>
22	3	鹿野良太	<p>1 子育て支援及び教育における環境整備について</p> <p>(1) 子育て支援拠点施設の建設計画が進んでいるが、遊び場などの施設建設だけではなく、孤独を感じたり、ストレスを抱えた保護者の方々が集い、問題を共有し、解決を支援するための拠点施設でなければならない。そこで、新施設におけるソフト面の支援計画について伺う</p> <p>(2) 少子化の中で、教育環境の整備がさらに重要度を増しているが、複式学級の解消及び学力アップの観点から、大崎市初の小中一貫教育の検討及び導入の可能性</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
23	12	相澤久義	<p>について伺う</p> <p>2 公園管理について</p> <p>(1) 児童遊園の遊具について専門業者と職員による定期的な点検が行われているが、点検の結果、現在の安全基準に満たないものは使用禁止の措置がとられている。西古川児童遊園においても、夏休み直前に使用禁止のテープが一部遊具に巻きつけられ、使えない子供たちがとても残念がっていたと聞く。児童遊園の管理方針と今後の修繕・改修工事の計画を伺う</p> <p>3 宮城オルレ大崎コースの整備進捗状況及び同事業の地元地域づくりへの寄与について</p> <p>(1) 宮城オルレ大崎コース認定への準備が進んでいるが、事業運営には、今後ボランティアやガイド等、地元住民の協力が不可欠である。住民への説明状況と、「オルレ」が地域づくりへ与える影響をどのように考えるか、伺う</p> <p>1 人口減少問題、少子化対策と若者定住について</p> <p>(1) 平成19年と30年の4月1日現在人口を比較すると、全体で6,710人減、うちゼロ歳から39歳が9,537人減、80歳以上が4,434人増、年少人口が2,705人減となっており、近年、大崎市の出生数低下が危機的、深刻な問題であり、どう捉えて今後出生数向上に取り組んでいくのか</p> <p>ア 20代、30代、40代男女別の既婚率と未婚率と母子・父子家庭数</p> <p>イ おおさき婚活支援センターの事業内容と実績の評価</p> <p>ウ 若者（男女）の出会いの場の提供について、公民館事業での取り組みは</p> <p>エ 平成19年から30年の間で20歳から34歳の人口推移2,015人市外流出をどう捉えているのか。 若者の市外流出阻止策と雇用の場の確保対策としての企業、大学の誘致、工業団地等の整備の考え方と現状について伺う</p> <p>オ 市営住宅の入居状況、家族・年齢構成、入居年数、退居世帯の家族・年齢構成、退居後の転居先は</p> <p>カ 移住定住に向けた新興住宅地開発について、平成19年、30年を比較し、人口増加の古川地域の中でも特に稲葉地区人口2,393人増、年少人口297人増。大幡地区人口1,634人増、年少人口488人増、志田東部地区1,856人増、年少人口457人増と、新興住宅地と言われている地区の人口増加が著しい。均衡ある地域振興と発展のため、この地区に続く住宅地開発は、比較的人口減の少ない、交通の利便性が比較的良好な三本木地域が適地と考えるが、新たな新興住宅地開発と都市計画の見直し、用途変更の考え方と移住定住策の考え</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>方について伺う</p> <p>キ 子育てしやすい環境整備の観点から、宮城県内、大崎市市内には子供たちを連れていく遊び場がないと若いお父さん、お母さんから言われているため、室内遊び場の整備の考え方と三本木総合支所跡地活用の考え方について伺う</p> <p>ク 大崎市 18 歳未満の兄弟構成はどうなっているのか</p> <p>ケ 少子化の中でも四、五人兄弟の家庭も見受けられるが、これらの家庭に市独自支援の取り組み、報奨制度の考えは</p> <p>コ 交通アクセス整備について、新幹線東 1 号線も一部を除きほぼ工事が完了し、利用者が増加しており、また国道 108 号東回りバイパス工事が進められている。一方、三本木地域内でも、市道多高田線、牛沼線、境堀線の工事が進められている。当初の新市建設計画の中に古川地域と三本木地域を結ぶ、多田川に橋をかける計画があったが、国道 4 号並びに米袋地区内市道の朝の交通渋滞解消、有事の際の安全・安心の観点から、再計画の考えは</p> <p>2 障がい者雇用問題について</p> <p>(1) 過日開催された総務常任委員会における報告の中で、障がい者雇用、法定雇用率を満たすために 6 人相当の雇用が必要とのことだが、職員採用の考え方を伺う</p>
24	26	木内知子	<p>1 自然災害から命を守る地域づくりについて</p> <p>(1) 自主防災組織の役割と活動の検証について</p> <p>(2) 地震災害と水害、土砂災害への対応策</p> <p>(3) ハザードマップの有効活用</p> <p>(4) 鳴瀬川、吉田川、多田川、江合川等河川内の支障木撤去、河道掘削、堤防強化工事の早期進行</p> <p>(5) 常襲冠水地帯の冠水対策工事の早期完成を</p> <p>2 市民が主役、協働のまちづくりを進めることについて</p> <p>(1) 松山駅前マリス商業用地への進出店舗をめぐる市の対応について</p>
25	16	横山悦子	<p>1 測量関係業務に係る入札執行等について</p> <p>(1) 宮城県と大崎市、旧大崎市土地開発公社発注の測量業務に関する入札談合問題で、公正取引委員会は独占禁止法違反行為により、県の入札では 12 社、市の入札 16 社が指名停止処分となった。課徴金納付命令や、さらに県や大崎市は、業者との契約に基づき、受注額の 20% に当たる違約金が請求されるが、談合問題について市長としての考えや感想を伺う</p> <p>(2) 競争原理が機能しなかった入札制度について、市は早速、公平公正な見直しに向け「大崎市入札・契約事務検討会議」を設置したが、再発防止策の検討内容と今後の方向性について伺う</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
			<p>(3) 職員のコンプライアンス教育と研修について伺う。今後の方針についても伺う</p> <p>2 太陽光発電設備の防災対策について</p> <p>(1) 台風や豪雨、大規模災害などにより、太陽光パネルが破損被害を受けた場合、感電や有害物質の発生等が懸念されるが、市民への対応について伺う</p> <p>(2) 太陽光パネルの破損被害に対する市民への注意喚起について、市民への事前の注意喚起をどのようにしているのか</p> <p>(3) 雨水対策について、山の斜面に太陽光パネルを設置している箇所では、豪雨時に土砂の流出が懸念される。太陽光発電設備において雨水対策が着実に行われているのか、伺う</p> <p>3 熱中症対策について</p> <p>(1) 学校における熱中症対策と事故防止について</p> <p>(2) 公立小中学校（及び幼稚園、保育所）の冷房化率と今後の見通しについて</p> <p>(3) 高齢者向けに、市としてどのような対策を行っているのか</p> <p>(4) 生活保護世帯（今年4月以降）への国からの補助におけるエアコン設置の現状と周知徹底について</p> <p>4 障がい者採用の拡充について</p> <p>(1) 障がい者の法定雇用率が、平成29年度の2.3%から平成30年度2.5%に引き上げになったが、本市の障がい者雇用人数と雇用率について伺う</p> <p>(2) 従業員50人以上から45.5人になるが、事業者の現状と今後の見通しについて</p> <p>(3) 平成33年4月までにはさらに0.1%引き上げとなるが、今後の雇用の努力義務について</p> <p>(4) 障がい者へのパワハラ防止策、職員への教育について</p> <p>5 高齢者肺炎球菌ワクチンについて</p> <p>(1) 高齢者肺炎球菌ワクチンの定期接種事業について、平成26年度から平成29年度の定期接種の接種率、また市の独自助成での接種者を合わせて、本市の65歳以上の接種率について伺う</p> <p>(2) 厚生科学審議会の感染症分科会予防接種部会におけるワクチン評価に関する報告では、65歳以上の方に高齢者肺炎球菌ワクチンを接種することで1年当たり5,115億円の医療費削減効果があると考えられるとしている。仮に、未接種者全員が接種したら、どれくらい効果があると考えられるか</p> <p>(3) 一度も助成制度を利用したことのない66歳以上を対象に独自助成をするべきではないか、本市の考えを伺う</p> <p>6 婦人防火クラブ員への処遇改善について</p> <p>(1) 婦人防火クラブ員の個人の報酬引き上げの考えについて</p> <p>(2) 名称は婦人防火クラブのままよいと考えているのか。一般的に「婦人」という響きがなじまなく、「女</p>	

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
26	23	後藤錦信	<p>性」と改めている自治体も多い。本市の考えについて2 伺う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大崎市立地適正化計画について <ol style="list-style-type: none"> (1) 最終年度を迎えているが、これまでの事業進捗とその評価について (2) 市民意見の把握の現状について (3) 過疎地域活性化との整合性について (4) 都市計画区域が無指定地域の計画について (5) 目標とする20年先の都市の姿をどのように見据えているか 2 高齢者の社会参加の促進について <ol style="list-style-type: none"> (1) 老人クラブ活動の現状と公民館事業との連携について (2) 介護保険事業に係る介護支援ボランティア制度への取り組みについて 3 観光振興について <ol style="list-style-type: none"> (1) 50年を迎えた栗駒国定公園エリアの連携推進について (2) エリア内における道路整備の推進について 4 地域課題解消への取り組みについて <ol style="list-style-type: none"> (1) 常襲冠水地区となっている鳴子温泉大畑地内の課題解決による良好な住環境の確保について 	